

令和元年度 第2回東御市総合教育会議 会議録

1 日 時

令和2年(2020年)1月30日(木) 午前10時31分から11時55分まで

2 場 所

公室

3 議 題

(1)成人式の実施年齢について

(2)小中学校の2学期制について

4 出席者

○市長 花岡利夫

○教育長 小山隆文

○委員

教育長職務代理者 下村征子

委員 小林経明

委員 小林利佳

委員 直井良一

○その他

小林教育次長、柳沢教育課長、小林学校教育係長

唐澤学校教育係主査、土屋学校教育係主任

会議録

小林教育次長

只今から第2回東御市総合教育会議を開会します。最初に、市長からごあいさつをお願いします。

花岡市長

教育の問題で、この頃高校再編ということで県教委が広域単位で要望を出してほしいということで第2次高校再編が進められています。東御清翔高校での夜間部の開設も検討されています。PTAの皆様の要望としては、通学区が不明確であるからよそに行かなくてはならない、地元の高校へ行けなくなるという意見があります。私の悪いところではあるが、また自分の(子ども)さえよければよいという考え方はそろそろやめてもらいたいと感じています。それよりも長野県では若者の自殺者が全国一となっています。生きる目的を教えていないことが課題ではないかと感じています。日本の教育、生き方の中で自分の生活第一ということによってやるべきことがなかなかできないということがあります。私たちはエゴイストはよくないと習ったはずですが、利他的であることが魅力的に感じるような、そうでなければ日本がおかしくなってしまうのでは、という思いです。いろんな意味で、改選期にあたって残すべきものは残していかなければいけないと、ちょうど、東御清翔高校の改築・新築が終了するということで式典が明日開かれ、一つの通過点を過ぎたなと思っています。市内で唯一の高校が生徒に喜ばれると同時に多様性に対応できる高校を目指しているので、先生方のいろいろなご意見をいただきたいと思えます。どうも日本中が、生徒に学校を好きになってもらうためには、学校を好きになる生徒にする、という取り組みであるように感じています。生徒に学校を好きになってもらえる学校になるためにはどうしなくてはならないのかが課題であると、例えばトイレの仕方を教えるのではなく、トイレをきれいにした方がトイレの使い方がよくなるのではないかと、ということでもあります。よりよい教育行政となるよう進めてまいりますのでよろしくをお願いします。

小山教育長

花岡市長、教育委員の皆様お忙しい中お集まりいただきましてお礼を申し上げます。本日は成人式の実施年齢についてと本年度から実施しました2学期制についての報告であります。先日、部落解放同盟東御市協議会の皆さんとともに学校人権同和教育懇談会を開催をしました。実践をとおした確かな発表をしていただきましたが、本市の人権同和教育を中心とした教育活動にご協力をいただいている校長先生を始め関係の先生方に感謝しております。教育課題は山積ですが、子どもファーストで対応していきたいと考えております。いろいろなご意見をいただけますよう、よろしく願いいたします。

小林教育次長

懇談に入らせていただきます。最初に、成人式の実施年齢についてであります。資料の2ページをご覧ください。2022年以降の成人式について概要をご覧ください。民法改正により2022年から成人年齢が18歳に引き下げられます。県内19市の状況は20歳のままが2市、18歳は今のところなし、検討中が17市となっています。ほぼ1年前に行われた日本財団の意識調査では、全国の800人に対して行われた結果、20歳が74%、18歳が24%でした。成人式の実施年齢については法律による決まりはなく、各自治体の判断に委ねられています。3ページの新聞の記事をご覧ください。松本市、佐久市は20歳のままで行うとのことでもあります。4ページをご覧ください。高校生の意見をまとめた新聞記事です。18歳派は、選挙権の18歳化を意識した意見が多く、20歳派は、18歳は進学、就職といった進路を決める大事な時期で多忙な時期であるので避けた方がよい、という意見です。5ページ、6ページは先ほどの日本財団の意識調査の結果の詳細資料であります。20歳派の主な理由は18歳だと受験に重なる時期だから、受験直前の時期だからであり、18歳派は、引き下げられた成人年齢がふさわしいから、であります。

東御市としましてはアンケートは行わず、今日お示した資料や市でこれまで実施してきた状況からご判断をいただきたいと思います。当方でご用意した資料は以上であります。ご意見、ご感想などいただきたいと思います。

小林経明委員

全国の自治体がこれまでどおり20歳で実施という状況で、ある意味同調圧力に屈せずに18歳で実施できるのか？今の流れからすると20歳という流れが多いですね。

花岡市長

成人式をやめてしまうという考え方もあります。成人年齢に達したら自覚してくださいということでもいいけれども、今の成人式は、整然と開催されており、再会を喜んでいるという状況もうかがえます。

小林利佳委員

実際問題、18歳は受験がとてネックになってくると思います。子どもたちによる実行委員会形式もゆとりがなく難しくなると思います。保護者の立場から見ても、20歳での成人式は、中学を卒業して久しぶりに再会をして、どんな選択をして、どんな人生を歩んでいるのかお互いに話をすることで、それからの成長につながっていると思います。実際問題、18歳では就職、受験ということで厳しいと思います。

直井委員

18歳とした場合、最初の年は、3世代一緒にやることになりますね。

小林次長

そうです。会場の検討も必要になります。ちなみに冠婚葬祭の冠が成人のお祝いのことを表しているようです。昔はもっと若い年齢で行われていました。お祝いという意味ではお祝いをする側の考え方も大切になってきます。法的な年齢を考えれば、未成年者飲酒禁止法で飲酒は20歳からとなっています。法律によって年齢制限が異なることも紛らわしいですね。ただ、選挙権が18歳からということで、今後若者の意識変化がどうなるかによっては、成人式実施年齢についても考え方が変わってくるかもしれません。

下村委員

20歳の方が精神的に安定しているのではないのでしょうか。将来の方向性が明らかになってきている時期ではないか、また、就職した人にとっては、人生の安定期に入ってくる頃ではないかと思えます。20歳での実施がよいと思えます。

小山教育長

東御市の夏に実施するという事は、保護者負担を掛けないということによりよいことと感じています。20歳での成人式は、大学生として勉学に励んでいる、社会人となって頑張っているといった経験を基にした話ができることがよいと思えます。恩師を呼んで、囲みながら中学校時代を振り返り、今とこれからを語れるということもよいのではないのでしょうか。高校生である18歳は、環境的にも高校生活の中で切り替えができていく状況と思えます。お祝いをするのは私たち大人であり、自立できる力が付いてきたと思われる時期として20歳が適当と考えます。

下村委員

東御市は8月開催ですので、18歳で成人式となるとほぼ半分は17歳ということになりますね。

小林利佳委員

17歳では選挙権もないということですね。

花岡市長

12月議会において、東御市としては総合教育会議で議論して市長が決定していくと答えております。今現在、日本中が20歳という傾向があつて、あえて18歳に変えるにはかなり大きな理由が必要であるわけで、現状では18歳で実施する状況にはないと考えます。実施年齢とは別に対象者の意見としては、晴れ着を着たいという意見があります。簡素化の社会的必要性を改めて考えてみる必要もありますが、検討をしても変わるとは思いませんけれども。

小林教育次長

そろそろまとめとさせていただきたいと思えます。総合教育会議におけるご意見を踏まえ、市長

判断として、東御市としての実施年齢はこれまでどおり 20 歳ということによろしいでしょうか。

全員

異議なし

小林教育次長

東御市としてはこれまでどおり 20 歳で開催することを確認いただきました。今後は、社会や若者の意識変化に注意をしてみたいと思います。

次に、小中学校の2学期制について、実施状況報告をいたします。お手元の新聞記事の資料の2ページ目であります。2学期制をすることにより始業式、終業式が少なくなり、通知表作成にゆとりができ、教員の負担軽減につながるという見出しがございます。東御市では本年度から北御牧中学校において完全2学期制を実施しています。

小学校においては祢津小学校で学期区分は3学期であります。通知表の作成は前期、後期の2回となっています。資料の8ページをご覧ください。完全実施をしている北御牧中学校の様子をまとめていますので、ご報告いたします。

実施状況であります。一つ目として、評価は2回になったが、2学期と3学期の期間の長短を考えると2学期制が適切ではないか、二つ目として、学習意欲の高い生徒は、範囲が広い分、緊張感をもって定期的にワークなどを提出して力をつけることができているとのこと。三つ目として、夏休みの補習があることで、夏休み明けの課題回収がとても楽になり、生徒からもわからない宿題を見てもらえてよかったという声が聞かれました。課題であります。一つ目として、3年生は、2学期の成績がはっきりしない中で受験となるので心配であるという意見がありましたが、これに対しましては、2学期制となったことで、長期休業前に生徒と向き合う時間が確保でき、相談の時間や三者懇談できめの細かい指導ができており、特に3年生の進路指導については丁寧に対応していくとのこと。三つ目として、2学期制になりテスト範囲が広く大変ではないか、また、夏休みに登校日があり夏休み感がなさそう、というご意見に対しては、テストのために勉強をしていく、テストで成績をつけるという従来の意識を、生徒・保護者・教師も変えていく必要があります。最終的には定期テストの撤廃も視野に入れながら、日常の様子を評価し、単元テストなどの結果とともに蓄積する。教師も育成を目指す資質能力の三つの柱を基に授業改善に取り組み、毎時間の授業を大切にする生徒の育成を図ることで対応したいとしています。

二つ目の課題として、2学期制になりテスト範囲が広く大変ではないか、また、夏休みに登校日があり夏休み感がなさそう、というご意見に対しては、テストのために勉強をしていく、テストで成績をつけるという従来の意識を、生徒・保護者・教師も変えていく必要があります。最終的には定期テストの撤廃も視野に入れながら、日常の様子を評価し、単元テストなどの結果とともに蓄積する。教師も育成を目指す資質能力の三つの柱を基に授業改善に取り組み、毎時間の授業を大切にする生徒の育成を図ることで対応したいとしています。

来年度に向けてであります。長期休業後の登校渋り対策として、夏休みが終わる4日前に登校日を設定して、生徒の健康状態、課題学習の進捗状況を確認、課題で困り感のある生徒は始業3日前から校内に課題に取り組む場所と時間を設定した結果、夏休み明け初日の欠席者は体調不良の2名のみであったとのこと。夏休み明け前の登校日については、今後も取り組んでいく予定であるというものです。

小山教育長

これまでも先生方に授業改善、子どもに寄り添った学級経営をお願いしておりますが、意識改革につながっていない状況です。中学においては県からの指示伝達による朝部活をやらないといった部活動の改善を行ってきましたが、思い切った策を取り入れることで、一層のプラス効果をもたらしたいことから、2学期制を取り入れました。様々な課題があることは承知しております。生徒数が減少し配置される先生の数も少なくなり、教科担任が3学年分のテストを作成するとなると、これは非常に大変なことであります。資料は前期分の様子からの報告ですが、生徒も先生も緊張感をもって取り組んでもらえたと思います。北中を含めた現在県下小中で19校で実施しており、2学期制を実施していた3校ほどは、3学期制に戻した学校もあります。2学期制の実施にあたり、先生方には生徒自身が、また、その保護者が成長の姿が実感できるように、見えるように支えていく必要があるということを伝えているところであります。夏休みに三者懇談や補習を実施し、子どもたちの自主性を育てる意味で取り入れてもらったことで、効果があったのではないかと考えております。検証しながら続けていきたいと考えております。

小林教育次長

先生方の負担軽減が図られていることはわかりますが、生徒の学力への状況は見ていない。北御牧中学校区では小中一貫がしっかりと根付いている。学力補償ができています。新たに2学期制を導入することでどういう展開となるか関心事となります。

小林経明委員

気になるのは、誰のための変革であるのか、ということです。これまでの説明では、子どもたちのためということが感じられません。

小山教育長

子どもたちのことを考えることは当然ではありますが、先生方に余裕がないと、子どもたちとの関わり、生徒に向き合う時間が取れないという難しさがあります。先生方に少しでも余裕の時間が生まれることで、子どもにも返ることだと考えております。

小林経明委員

3学期を作ってきた先人たちが、1学級50人というクラス運営をしてきたわけで、今は30人学級であって、明らかに時間が生まれてきているのではないのでしょうか。今の先生の資質や気質の変化が、今のニーズを生み出しているのではないかと感じています。

花岡市長

先生に余裕ができることで余裕のある教育ができるというのは一般論であって、子どもにとってどういう変化が生まれるかということを考えなくてはいけません。子どもにとっての変化や効果を語

らなくてははいけないし、考察してもらいたいと思います。ところで学力検査は必要なのか。経年比較はできるが、先生方はその結果をどのように生かしているのか、真剣に活用されているのかという思いがあります。事例として、希望者への追試(前回とほとんど同じ内容のテスト)の実施で学力が上がっているという方法があります。2学期制でテスト回数は減るが、このような方法もどうか。授業にあっては、嫌いな科目を嫌いな先生から1時間受ける苦痛があるということがよいかどうか、考える時代に来ているかもしれない。大変なことなんだが、自主的に自分がなぜ勉強しているのかということ子どもたちにわかってもらうには、社会は何をしたらいいのかが必要なのではないか。テストについては、テストで得た結果を自分のものとして捉え、どのように改善していくかが大切です。先生方が、成績をつけるためだけにテストをするというのではなく、テストの結果から見えてくるものがあり、それを先生が指導にどのようにつなげていくかが大切です。子どもたち自身もテスト結果について何か感じているはずで、子どもたちの感じていることに対して、先生方が適切に答えていければよいのではないのでしょうか。

直井委員

北御牧中は5年後に全学年単級化していくと、配置される専科の先生が減少し、先生方の負担も増えることは必至であります。それを見据えての取り組みでもあり、今年度2学期制をやってみた結果、残業時間が減っています。また、北御牧小中学校は、小中一貫を行っていることから、小学校も同じ2学期制にする必要があると考えますが、小学校では行わないという方針でいるとうかがっています。

小山教育長

学期制については校長判断であります。北御牧中学校の取り組み結果によっては、2学期制を行いたいとする学校も増えてくるでしょうが、今のところ北御牧中、祢津小学校以外は、2学期制を行う予定はありません。

小林経明委員

テストについては、先生が自分で作らないと指導に役立つことはできないのではないのでしょうか。テストを指導に生かすとなれば、自分で作ってみたいことにはわからないのではないかと思います。

花岡市長

テストをやらされる生徒の身になって考える必要があります。子どもが自ら学習に取り組むような環境に、また、人間性豊かな人が評価される社会になっていかななくてはならないと思います。これらのことは先生方も承知はされていることと思うが。

小山教育長

教えることを減らしても、自主的に学ぶ意欲を高める教育が将来役に立つのではないかとは思いますが、なかなかできないのが現状です。2学期制については、継続する中でテストのことも含め、課題対応と効果の検証をしてみたいと思います。

小林教育次長

2学期制の現状報告は、これで終了とさせていただきます。皆様、本日はありがとうございました。